

病害虫発生予報 第5号(8月予報)

令和8年7月28日
岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	8月予報	
			発生時期	発生量
水稲	穂いもち	早期栽培	やや早	平年並
		普通期栽培	平年並	平年並
	紋枯病	栽培地域全域	平年並	平年並
	ニカメイガ	栽培地域全域	平年並	少
	セジロウンカ	栽培地域全域	平年並	平年並
	トビイロウンカ	栽培地域全域	平年並	平年並
	ツマグロヨコバイ	栽培地域全域	平年並	やや多
	斑点米カメムシ類	栽培地域全域	やや早～平年並	やや多
大豆	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	－	多
かき	カキノヘタムシガ	栽培地域全域	平年並	やや少
	ハマキムシ類	栽培地域全域	やや早	多
なし	ナシヒメシクイ	中濃地域	早	少
もも	ナシヒメシクイ	飛騨地域	平年並	平年並
果樹共通	カメムシ類	栽培地域全域	－	やや多
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域		多
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	－	少
野菜一般	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	－	平年並
	タバコガ類	栽培地域全域	－	多
	アザミウマ類	栽培地域全域	－	平年並
施設野菜	コナジラミ類	岐阜・西濃地域	－	多

※発生時期の－は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）
<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

I 普通作物

1 水稲

穂いもち	対象地域	発生時期 <初発生>	発生量
	早期栽培	やや早（7月第6半旬～8月4半旬頃）	平年並
	普通期栽培	平年並（9月第1半旬頃）	平年並

- (1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（＋）、少なくなる要因を（－）で表記）
- ア 葉いもちの発生ほ場率は、中濃地域で高く（＋）、岐阜・西濃、東濃地域で低く（－）、飛騨地域で平年並み（±）であった。
- イ 葉いもちの上位葉における発病は、全域で少なかった（－）。
- ウ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（－）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 散布剤による防除は、穂ばらみ期～穂揃い期に実施する。葉いもちが発生しているほ場や、本病に対する箱施薬などの予防剤を使用していないほ場では特に注意する。
- イ MBI-D(カルプロバミド、ジクロシメット、フェノキサニル等)剤に対する耐性菌が当県でも確認されているため、別系統の薬剤を使用する。また、QoI 剤に対する耐性菌が確認されているため、薬剤の選択に注意する。
- ウ 過剰な追肥は、発病を助長するので行わない。
※ 病害虫図鑑「水稻 いもち病について」もあわせて参考にしてください。

紋枯病	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (8月第2～3半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 初発生は、認められていない(－)。
- イ 水稻の草丈、茎数ともに平年並であった(±)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/25～8/24)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 本病に対する箱施薬などの予防剤を使用していないほ場では、発生状況に注意する。
※ 病害虫図鑑「水稻 紋枯病について」もあわせて参考にしてください。

ニカメイガ	対象地域	発生時期 <第1世代成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (8月第3半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア 越冬世代成虫の予察灯への誘殺は、認められていない(－)。
- イ 第1世代幼虫による被害ほ場は、認められていない(－)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/25～8/24)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 前年に被害が発生した地域では注意する。

セジロウンカ	対象地域	発生時期 <成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (8月第2～6半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、飛騨地域で早く(+)、他の地域では認められていない(－)。
- イ 予察灯での誘殺数は、飛騨地域で多く(+)、他の地域では認められていない(－)。
- ウ ほ場での発生量は、中濃地域で多く(+)、他の地域で認められていない(－)。
- エ 向こう1ヶ月(7/25～8/24)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 水田での発生状況を確認し、要防除水準(8月上旬に幼虫が5頭/株以上)を超える場合は防除を行う。
※ 病害虫図鑑「水稻 セジロウンカ・トビイロウンカについて」もあわせて参考にしてください。

トビイロウンカ	対象地域	発生時期 <幼虫・成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (8月第5～6半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への誘殺数は、認められていない(－)。
- イ 海外飛来性害虫予測システムによると、7月2日、4日に岐阜県への飛来が予測されている(+)。
- ウ 7月下旬時点、ほ場での発生は、認められていない(－)。
- エ 向こう1ヶ月(7/25～8/24)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 水田での発生状況を確認し、要防除水準（早植栽培では8月上旬、普通植栽培では8月中下旬に平均2～3頭/株）を超える場合は直ちに防除を行う。
- イ 発生状況等について、今後の情報に注意する。

ツマグロヨコバイ	対象地域	発生時期 <第3世代幼虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並（8月第3半旬頃）	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における第2世代成虫の誘殺最盛期は、全域で認められていない（－）。
- イ 予察灯における誘殺数は、岐阜・西濃、中濃、東濃地域で多く（＋）、飛騨地域で少ない（－）。
- ウ 7月下旬のほ場での発生量は、岐阜・西濃、東濃地域で少なく（－）、中濃地域でやや多く（＋）、飛騨濃地域で多かった（＋）。
- エ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 地域による発生量の差が大きいので、発生状況に注意する。
- ※ 病害虫図鑑「水稻 ツマグロヨコバイについて」もあわせて参考にしてください。

斑点米カメムシ類	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早～平年並	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 出穂期は、平年並からやや早いと予想される（±～＋）。
- イ 予察灯の誘殺数は、アカスジカスミカメが岐阜・西濃、東濃、飛騨地域で少なく（－）、中濃地域で平年並であった（±）。
- ウ 畦畔での発生量は、岐阜・西濃、中濃、飛騨地域でシラホシカメムシ類が多く（＋）、東濃地域でクモヘリカメムシが多かった（＋）。
- エ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂10日前までに畦畔等の雑草地における除草を徹底し、特にイネ科雑草は、出穂させないように管理する。
- イ 散布剤による防除は、穂揃期およびその7～10日後の2回を基本とする。
- ウ 粒剤による防除は、出穂期の7～10日後が基本となるが、斑点米カメムシ類の発生が多い場合等には出穂～穂揃期に実施する。
- エ イネカメムシおよびクモヘリカメムシは出穂直後から吸汁し、被害が激しい場合は不稔を引き起こすため、前年の被害ほ場や既に発生が認められるほ場では、出穂期に効果が得られるように防除を実施する。
- ※ 病害虫図鑑「水稻 斑点米カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 大豆

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップにおける誘殺数は、多かった（＋）。
- イ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。
- イ フェロモントラップを設置してモニタリングしているほ場では、今後の誘殺数に十分注意する。
- ※ 病害虫図鑑「大豆 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

Ⅱ 果樹等作物

1 かき

カキノヘタムシガ	対象地域	発生時期＜第2世代幼虫最盛期＞	発生量
	栽培地域全域	平年並（7月第5半旬頃）	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 第1世代成虫の発生最盛期は、平年並であった（±）。
- イ 第1世代成虫の7月第1～第5半旬における累計見取り調査数は、やや少なかった（－）。
- ウ 第1世代幼虫による被害果率は、低かった（－）。
- エ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 例年発生が多いほ場では、長期残効が期待できる薬剤を選択するか、1回目の防除7～10日後に追加防除を実施する。
- ※ 病害虫図鑑「かき カキノヘタムシガ」も参考にしてください。

ハマキムシ類	対象地域	発生時期＜第3世代幼虫最盛期＞	発生量
	栽培地域全域	やや早（8月第4半旬頃）	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における第1世代成虫の誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域のチャハマキは認められず（－）、中濃地域のチャハマキで平年並（±）、チャノコカクモンハマキで早かった（＋）。
- イ 予察灯における第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで少なく（－）、中濃地域のチャハマキ、チャノコカクモンハマキが多かった（＋）。
- ウ フェロモントラップにおける第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで多く（＋）、中濃地域のチャハマキ、チャノコカクモンハマキともに多かった（＋）。
- エ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア ヘタ部やつづり合わせた葉内などに生息するため、薬剤防除はていねいに行う。
- ※ 病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期 ＜第4世代幼虫最盛期＞	発生量
	中濃地域	早（8月第1半旬頃）	少

(1) 予報の根拠

- ア 中濃地域のフェロモントラップでの第2世代成虫誘殺最盛期は、早かった（＋）。
- イ 中濃地域のフェロモントラップでの誘殺数は、少なかった（－）。
- ウ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫発生初期に防除を実施する。
- ※ 病害虫図鑑「なし ナシヒメシンクイについて」もあわせて参考にしてください。

3 もも

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期 ＜第3世代幼虫最盛期＞	発生量
	飛騨地域	平年並（8月第4半旬頃）	平年並

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップにおける誘殺数は、少なかった（－）。
- イ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 交信攪乱剤が設置されていないほ場では、発生に注意する。

4 果樹共通

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における成虫誘殺数は、岐阜・西濃、飛騨地域で少なく（－）、東濃地域でやや少なく（－）、中濃地域が多かった（＋）。
- イ フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は、岐阜・西濃地域で平年並（±）、中濃地域で多く（＋）、東濃地域でやや少なく（－）、飛騨地域で少なかった（－）。
- ウ 向こう１ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 気温、湿度が高く風の弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。
※ 病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考になしてください。

5 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生量
	岐阜・西濃地域	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における第１世代成虫の誘殺最盛期は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに早かった（＋）。
- イ フェロモントラップにおける第１世代成虫誘殺最盛期はチャハマキ、チャノコカクモンハマキともに早かった（＋）。
- ウ フェロモントラップにおける第１世代成虫の誘殺数は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに多かった（＋）。
- エ 巻葉被害は、多かった（＋）。
- オ 向こう１ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫が葉をつづりあわせると、葉液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施する。
※ 害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考になしてください。

Ⅲ 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	少

(1) 予報の根拠

- ア 7月下旬調査時の発病果率は、全域で低かった（－）。
- イ 7月下旬調査時の発病株率は、やや低～低かった（－）。
- ウ 向こう１ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（－）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考になしてください。

2 野菜一般

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップの誘殺数は、東濃地域で平年並（±）、岐阜・西濃、中濃地域で少なかった（－）。
- イ さといもにおける被害は、認められている（＋）。
- ウ 向こう１ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想

される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 今後の発生状況等について、「病虫害発生予報（9月予報）」等に注意する。

※ 病虫害図鑑「野菜類 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

タバコガ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は、多かった（＋）。タバコガの誘殺数は、中濃、飛騨地域でやや多～多く（＋）、東濃地域でやや少ない（－）。

イ タバコガ類の被害は認められている（＋）。

ウ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

※ 病虫害図鑑「ナス タバコガ類について」もあわせて参考にしてください。

アザミウマ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア ナスほ場での発生は、中濃、東濃地域で多く（＋）、岐阜・西濃地域で少なかった（－）。

イ トマトほ場での発生は、中濃、東濃地域で少なく（－）、飛騨地域で多かった（＋）。

ウ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病虫害図鑑「キュウリ ミナミキイロアザミウマについて」もあわせて参考にしてください。

3 施設野菜

コナジラミ類	対象地域	発生量
	岐阜・西濃地域	多

(1) 予報の根拠

ア トマト施設周辺に設置した黄色粘着板への誘殺数は、やや多かった（＋）。

イ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。

※ 病虫害図鑑「トマト コナジラミ類について」もあわせて参考にしてください。

【各地域の病害虫発生調査結果および今後の予測】

※岐阜・西濃地域

作物名	病害虫名	7月発生量	8月発生予測	
			発生量	時期
水稻	穂いもち	早期栽培	少	やや早
		普通期栽培	少	並
	紋枯病		並	並
	ニカメイガ		少	並
	セジロウンカ		並	やや遅
	トビイロウンカ		並	—
	ツマグロヨコバイ		やや多	並
	斑点米カメムシ類		やや多	並
大豆	ハスモンヨトウ	多	多	早
かき	ハマキムシ類	多	多	やや早
果樹類	果樹カメムシ類	やや少	並	—
茶	ハマキムシ類	多	多	—
野菜一般	アザミウマ類	少	やや少	—
	コナジラミ類	やや多	多	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

● 水稻

・ ツマグロヨコバイ

海津市に設置した予察灯への5月1半旬から7月4半旬の累計誘殺数は4頭（平年0.9頭）と多く推移しました。穂への吸汁害を防ぐために、出穂前後の幼虫期に防除を行ってください。水田内では成幼虫が混在しているため、幼虫の比率が7～8割と見られる時期に防除を行ってください。

・ 斑点米カメムシ類

7月中旬に実施した水稻一斉調査では、畦畔のすくい取り調査で本虫の発生が確認され、水田内でイネ科雑草が出穂している地点では本虫の侵入が確認されています。また一部ほ場ではイネカメムシの発生が確認されています。水稻の出穂直前および出穂後の畦畔除草は斑点米カメムシ類を水田内に追い込む恐れがあるため、出穂10日前までに実施してください。防除は出穂～穂揃期とおよびその7～10日後の2回実施してください。イネカメムシおよびクモヘリカメムシは、出穂前から飛来し、開花期以降に集中して加害するため、防除時期が早く、散布剤では出穂期前後、粒剤では出穂期の5～10日前に防除してください。

● 大豆

・ ハスモンヨトウ

海津市に設置したフェロモントラップ（以下PT）への5月1半旬から7月4半旬の累計誘殺数は1191.6頭（平年510.3頭）と多く推移しました。PTによる誘殺ピークは平年9月～10月に見られることから、今後も発生量が増加し、被害が拡大する恐れがあります。白変葉の発生を確認したら、直ちに防除を実施してください。また、幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫の防除に重点をおいてください。

● かき

・ ハマキムシ類

岐阜市に設置したチャノコカクモンハマキの第1世代成虫のフェロモントラップ（以下PT）への5月6半旬から7月2半旬の誘殺数は175頭（平年79.9頭）と多く推移しました。第1世代の発生が多かったため、第2世代の発生も多くなると予想されます。今後の情報に注意するとともに、ほ場での被害が認められたら防除を実施してください。

● 茶

・ ハマキムシ類

池田町に設置したチャノコカクモンハマキの第1世代成虫のPTへの5月5半旬から7月

1 半月の誘殺数は、1234頭(平年792.7頭)と多く推移しました。また、同地点に設置したチャハマキの第1世代成虫のPTへの5月3半月から7月3半月の誘殺数も、768頭(平年251.3頭)と多く推移しました(図1)。第1世代の発生が多かったため、第2世代の発生も多くなると予想されます。今後の情報に注意するとともに、ほ場での被害が認められたら防除を実施してください。

●野菜一般

・コナジラミ類

海津市に設置した黄色粘着板への7月第1半月から第4半月までのコナジラミ類の誘殺数は、511.9頭(平年418.5頭)とやや多く推移しています。(図2)。コナジラミ類はトマト黄化葉巻病やキュウリ退緑黄化病などのウイルス病を媒介します。防虫ネット等の隙間や破れを補修し、施設内への侵入対策を実施してください。

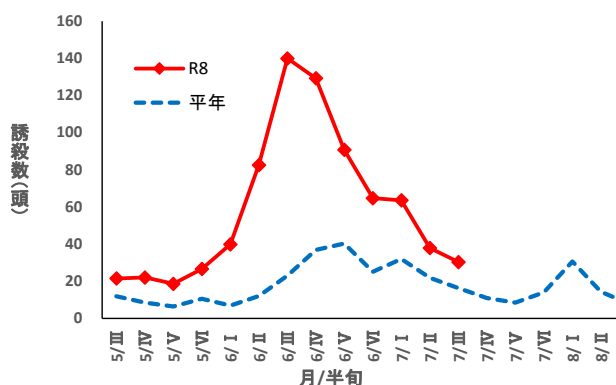


図1 PT*によるチャハマキ誘殺数の推移
(池田町)

*：フェロモントラップ

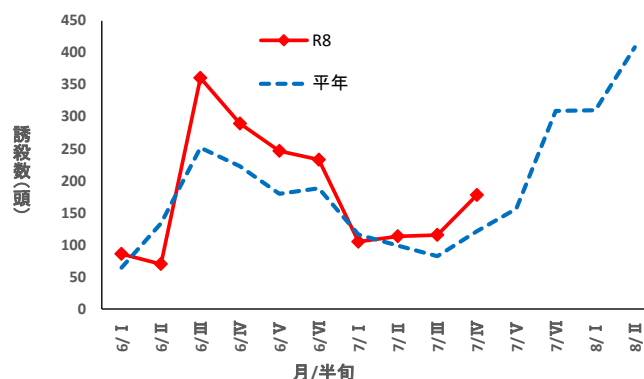


図2 黄色粘着板によるコナジラミ類誘殺数の推移
(海津市)

※中濃地域

作物名	病害虫名	7月発生量	8月発生予測	
			発生量	時期
水稻	穂いもち	早期栽培	多	並
		普通期栽培	少	並
	紋枯病	少	並	並
	ニカメイガ	少	少	並
	セジロウンカ	並	並	やや遅
	トビイロウンカ	少	並	—
	ツマグロヨコバイ	多	多	並
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	並
かき	ハマキムシ類	多	多	やや早
なし	ナシヒメシンクイ	やや少	やや少	並
果樹共通	果樹カメムシ類	少	並	—
トマト	灰色かび病	少	少	—
野菜一般	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	並
	タバコガ類	多	多	並
	アザミウマ類	やや少	並	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●水稻

・穂いもち

B L A S T A M (アメダスを利用した葉いもち発生予測システム)によると、7月上旬に中濃地域で感染好適条件が確認されています。山際等の日照条件の悪いほ場を中心に葉いもちの発生ほ場が多くなるおそれがあります。葉いもちの発病が認められるほ場では穂い

もちの発生が懸念されるため、出穂期の防除を実施してください。

- ・ツマグロヨコバイ

美濃加茂市に設置した予察灯への6月1半旬から7月第4半旬の累計誘殺数は181頭（平年21.4頭）と多く推移しました。穂への吸汁害を防ぐために、出穂前後の幼虫期に防除を行ってください。水田内では成幼虫が混在しているため、幼虫の比率が7～8割と見られる時期に防除を行ってください。

- ・斑点米カメムシ類

7月中旬に実施した水稻一斉調査では、畦畔のすくい取り調査で本虫の発生が確認され、水田内でイネ科雑草が出穂している地点では本虫の侵入が確認されています。また一部ほ場ではイネカメムシの発生が確認されています。水稻の出穂直前および出穂後の畦畔除草は斑点米カメムシ類を水田内に追い込む恐れがあるため、出穂10日前までに実施してください。防除は出穂～穂揃期とおよびその7～10日後の2回実施してください。イネカメムシは、出穂前から飛来し、開花期以降に集中して加害するため、防除時期が早く、散布剤では出穂期前後、粒剤では出穂期の5～10日前に防除してください。

- かき

- ・ハマキムシ類

美濃加茂市に設置したチャハマキのフェロモントラップへの6月第5半旬から7月第4半旬累計誘殺数は34頭（平年6.2頭）と多く認められています。ふ化幼虫が葉やへたなどをつづると、薬液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施してください。

- 果樹共通

- ・果樹カメムシ類

発生には地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

- 野菜一般

- ・タバコガ類

可児市に設置したオオタバコガのフェロモントラップへの6月第3半旬から7月第4半旬誘殺は291頭（平年188.9頭）と多く認められており（図3）、ナスへの食害も認められています。中齢以降の幼虫は薬剤が効きにくく、果実内に深く食入すると薬剤がかかりにくくなるため、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を実施してください。なお、薬剤散布の目安はほ場で卵がみられた約5～7日後になります。

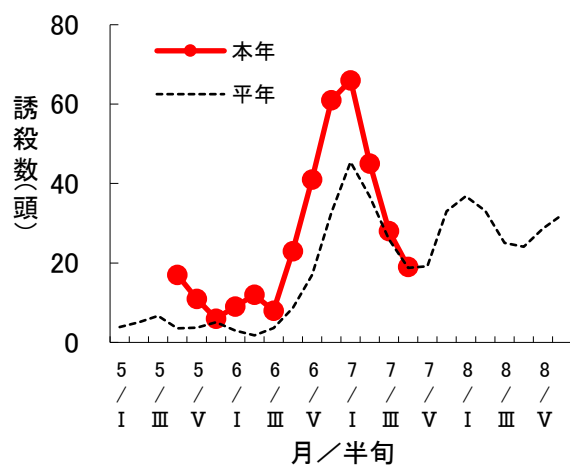


図3 PT*フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺数の推移(可児市)

*：フェロモントラップ

※東濃地域

作物名	病害虫名	6月発生量	7月発生予測	
			発生量	時期
水稻	穂いもち	—	少	並
	紋枯病	少	やや少	並
	ニカメイガ	少	少	並
	セジロウンカ	少	並	並
	トビイロウンカ	少	並	—
	ツマグロヨコバイ	多	多	並
	斑点米カメムシ類	並	並	並
果樹共通	果樹カメムシ類	やや少	並	—
夏秋トマト	灰色かび病	少	少	—
野菜一般	ハスモンヨトウ	並	やや多	—
	タバコガ類	多	多	—
	アザミウマ類	多	多	—

●水稻

・斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類は、出穂と同時に水田に侵入し、開花～糊熟期にかけて水稻を加害します。なお、イネカメムシおよびクモヘリカメムシは登熟初期から加害し著しい不稔被害を発生させるため、防除時期に注意が必要です。

イネカメムシにおいては、防除時期が早く、散布剤では出穂期前後、粒剤では出穂期の5～10日前が防除適期となります。イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類に対する散布剤による防除は、穂揃期およびその7～10日後の2回実施してください。

●果樹共通

・果樹カメムシ類

発生には地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

●野菜一般

・タバコガ類

恵那市長島町に設置したオオタバコガのフェロモントラップへの6月第1半旬から7月第4半旬誘殺は48頭（平年頭）と多く認められており、トマトでの食害も認められています。中齢以降の幼虫は薬剤が効きにくく、果実内に深く食入すると薬剤がかかりにくくなるため、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を実施してください。なお、薬剤散布の目安はほ場で卵がみられた約5～7日後になります。

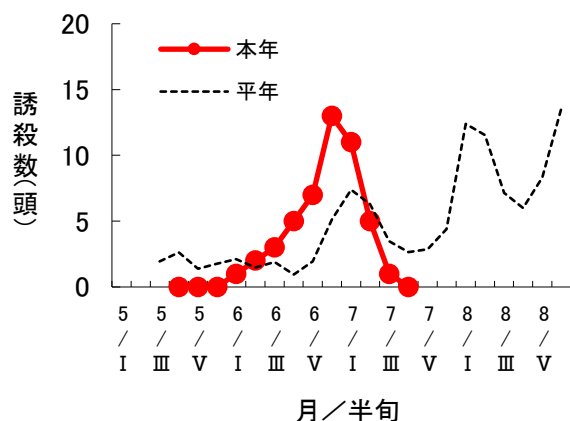


図4 PT*へのオオタバコガの誘殺数の推移 (恵那市)

*：フェロモントラップ

※飛驒地域

作物名	病害虫名	7月発生量	8月発生予測	
			発生量	時期
水稲	穂いもち	－	並	並
	紋枯病	少	少	並
	ニカメイガ	－	並	－
	セジロウンカ	並	並	並
	トビイロウンカ	－	並	－
	ツマグロヨコバイ	－	並	－
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	－
もも	ナシヒメシンクイ	少	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや多	やや多	並
夏秋トマト	灰色かび病	少	少	並
野菜一般	タバコガ類	やや多	多	やや早
	アザミウマ類	並	やや多	並

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●水稲

・穂いもち

穂いもちは、発生後に効果的な防除を行うことが困難となります。特に葉いもちが上位葉に発生しているような場合は、穂いもちの発生が多くなるため、穂ばらみ期～穂揃期に予防的な防除を徹底してください。

・紋枯病

気温が高く雨が多い気象条件や、生育が過繁茂である場合は発病が助長されます。分けつ期頃に水平進展、のちに垂直進展がみられ、垂直進展は、高温で湿度が高い時期ほど進展は早いため、本田内で発生を確認したら、出穂前に防除を実施してください。

・斑点米カメムシ類

水稲の出穂と同時に水田へ侵入し、開花期～糊熟期にかけて水稲を加害します。畦畔などのイネ科雑草が増殖場所となるため、出穂2週間前までに除草を完了してください。薬剤防除は、1回目を出穂7日後頃、2回目を1回目散布の7～10日後の2回防除を実施してください。

●もも

・ナシヒメシンクイ

薬剤による防除適期は成虫発生最盛期より7～10日後です。幼虫が果実内に食入してからの防除では手遅れとなることが多いため、残効が期待できる薬剤を選択し、適期防除に努めてください。発生が多い時には追加防除を検討してください。

●果樹全般

・カメムシ類

今後は新世代が発生します。例年、8月上旬をピークにその後は気温低下とともに減少しますが、発生が多い年は、8月下旬まで多く飛来するため注意が必要です。山沿いの園地等、被害が出やすい場所をよく観察し、多くの飛来を確認した時期を逃さず防除を実施してください。

●野菜一般

・タバコガ類

下呂市に設置したオオタバコガのフェロモントラップへの5月第1半旬から7月第3半旬累計誘殺数は28.9頭（平年27.7頭）と多く認められています（図5）。薬剤散布の目安はほ場で卵がみられた約5～7日後です。早期発見に努め、若齢幼虫期に散布ムラがないように丁寧な防除を心がけてください。また、タバコガ類は薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避けた防除を実施してください。

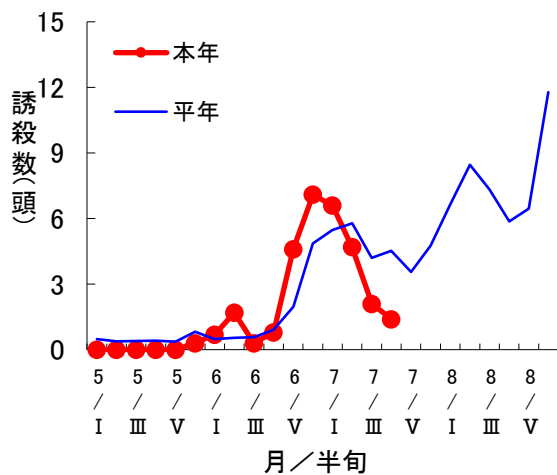


図5 PT*によるオオタバコガの誘殺数の推移 (下呂市)
*: フェロモントラップ

[参考資料2]

《用語の基準と使用法》

- | | |
|-------|---|
| 1 半旬 | 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。 |
| 2 時期 | 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
やや早い 平年値より3～5日早い。
やや遅い 平年値より3～5日遅い。
早い 平年値より6日以上早い。
遅い 平年値より6日以上遅い。 |
| 3 発生量 | 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
多い 平年値より、その値が41%以上多い。
少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。 |
| 4 平年値 | 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。 |

[参考資料3]

【東海地方1か月気象予報】(抜粋) 名古屋地方気象台 令和8年7月23日発表
 《予想される向こう1カ月の天候(7月25日から8月24日)》
 向こう1カ月の気温は、高い見込みです。降水量はほぼ平年並の見込みです。

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

6月～8月は、令和8年度農薬危害防止運動の実施期間です。農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及するとともに、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を徹底し、農薬による事故等を未然に防止しましょう。